

# 牛久：学校周辺に見る自然

第2号 牛久自然観察の森

2021年4月3日発行

## ＜ 春の訪れ ～②その他の樹木＞

皆さん、こんにちは。今回は、牛久自然観察の森で見られた桜以外の樹木の紹介です。



まだ咲き残っていたコブシ。

桜と入れかわるように花が終わってきたコブシですが、まだ咲き残っている木もありました。花は中心の太い緑色の軸にたくさんついている小さいのが雌しべで、そのまわりにたくさん並んだ細長いのが雄しべです。花のすぐ下に、小さな葉があるのが特徴。秋に面白い形の実ができれば、またお知らせします。



満開のヒュウガミズキ（左）と、まだ咲き残っていたトサミズキ（右）。

観察舎近くのヒュウガミズキも咲いていました。ソメイヨシノと同様、葉が開く前に花が咲きます。よく似たトサミズキは、大部分が花は終わっていましたが、わずかにまだ咲き残っていました。





穂ほになってたれ下がる、キブシおぼなの雄花（左）とアカシデおぼなの雄花（右）。

穂ほになってたれ下がる花もありました。一つはキブシくさきぞめ。草木染の原料として、五倍子（ふし）のかわりに果実を使ったのでついた名だそうです。もう一つは、アカシデおぼな。雄花おぼながたれ下がり、雌花めぼなはまだ顔を出してないようでした。



ヤブツバキの花（左）と、下に落ちた花（右）。

ヤブツバキもきれいに咲さいていました。ツバキとサザンカとの見わけは、種類によって中間的なものもありますが、サザンカは花びらが1枚1枚散り、ツバキは花ごと落ちます。花が咲く時期も、サザンカの方が早いですね。よく見ると葉はにも違いちがいがありますが、その話はまたの機会きかいにします。



理科実験りかじっけんで使うろうとのような形の花をぶら下げる、ウグイスカグラ。

理科の実験じっけんに使うろうとのような形をした、淡い紅色あわべいろの花をたくさんぶら下げたウグイスカグラもきれいでした。果実は、6～7月に赤く熟じゅくします。





赤く熟した果実をぶら下げるマンリョウ(左)とヤブコウジ(右)。

赤い実をぶら下げて、鳥を誘っている木もありました。一つは、うちの庭にもいつの間にか育っていたマンリョウ。鳥が食べて糞といっしょにタネを落とし増えていきます。もう一つはヤブコウジ。センリョウやマンリョウなどと並べて、十両(じゅうりょう)とよばれることもあります。



かわいいイロハモミジの花(左)と、草のようなフッキソウ(右)。

イロハモミジも葉が開いてきましたが、よく見るとかわいい花も下がっています。さらによく見ると、花の集まりには雄花と両性花(雄しべも雌しべもある花)が混じっています。学校や公園にもよく植えられているので、見かけたら観察しましょう。背が低くて草のようにも見える、フッキソウも咲き出していました。では、木と草の違いって何でしょう？



最後に少しスペースができたので、用事があって行った市役所で撮ったハナズオウ。花の色がスオウで草木染めした色に似て濃い赤紫色なので、この名がつけました。拡大した花の形を見ると、マメのなかまであることが分かりますね。校庭などにも咲く、カラスノエンドウなどと比べてみましょう。

【理科支援員：宮内】

ハナズオウの花(左)とその拡大(右)。